

中学校区におけるめざす子ども像 ・自分も人も大切に子ども ・主体的に考え、行動できる子ども 《時を守り 場を清め 礼を正す》
--

令和7年度 重点目標 「心地よい学びがあふれる学校づくり」 ・学び多い、心地よい授業となるよう、授業内容・方法を研鑽する。授業のUD化を進める。 ・居心地のよい教室環境、よりよい友だち関係の構築を心がけ、心地よい教室づくりを進める。 ・心地のよい職場となるよう、風通しのよい環境づくりに努め、互いの時間を尊重しあう。

確かな学びの現状 ・研究教科として国語を取り上げ、実践を通した研修を進めた。子どもたち自身が国語の学習内容のつながりを意識しながら学習し、着実に力をつけている。 ・読書について、学年に応じためざす姿を設定し、図書室の整備、子どもたちへの指導を行った結果として、「読書が好きだ」ということが増え、図書館の使用も増えている。 ・主体的に学習する姿が見られる一方、それが「国語が好きだ」「算数が好きだ」という教科への愛好的態度にはつながっていない。	豊かな心・健やかな体の現状 ・道徳、人権の学習、またさまざまな取組を系統的に実施できた成果として、自分や友だちのよさを認識し、違いを認め合おうとする学級や学年の土台ができあがってきている。 ・たてわり活動を積極的に取り入れていることで、下級生に対する親切心や、上級生に対するあこがれの気持ちも育ってきている。 ・ここ数年、ウイルス感染防止のためのさまざまな形の運動制限や、校舎増築にかかわり運動場がせまくなっていったことにより、「運動が好きだ」と考える児童の割合が低下している。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学ぶ環境	図書館を活用し、進んで読書する子を育てる。タブレットを活用した、授業づくりを行う。ユニバーサルデザインの観点から大切にしたい授業を行う。	図書館を活用し、進んで読書する。	低学年「楽しんで読書している」、中学年「幅広く読書している」高学年「進んで読書している」の項目で、肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○	「読書」は、1年生では85.9%だが、6年生になると66.7%まで下がっている。高学年は、友だちと本を紹介し合ったり、読書100選などおすそめの本について話したりする機会を増やすことなどによって、読書への関心を高められる取り組みを継続的に進めてきた。タブレット学習では、算数科において堺市平均よりも使用頻度が高い一方で、国語科においては使用頻度が平均を下回った。今後は教科の特性や学習内容を踏まえてタブレットの活用を進めるとともに、情報活用能力の育成、情報モラルの向上にも努めていく。 授業スタンダードとして、UD化は定着しつつある。	・UD(ユニバーサルデザイン)に基づく授業づくりが実践されている点は、大変素晴らしい取組である。多様な子どもが在籍する中、どの子にとっても安心して学べる環境づくり、分かりやすい授業づくりを今後も継続してほしい。また、児童の様子にどのような変化が見られるか、「気持ちよく授業が受けられているか」などのアンケートを実施するなどして、取組の効果を検証し、次の改善につなげていくことを期待する。 ・教科の特性を踏まえてタブレット端末を効果的に活用している点は評価できる。一方で、文字を書く活動の大切さについても引き続き意識して指導にあたってほしい。また、不登校児童への対応においても、タブレットが子どもとつながる手段の一つとなり得るため、活用の可能性をさらに探り、支援の幅を広げていくことを望む。 ・高学年になるにつれ読書への関心は低下する一方で、学習に関する関心は増加する点について、大変興味深い傾向である。読書だけではなく、児童がインターネットやタブレット等、様々なツールを使って情報を得ていることも背景にあるのではと考える。そういった状況を踏まえ、情報を適切に選び活用する力や、情報社会で安全に行動するための情報モラルの育成は、喫緊の課題であると言える。今後は、読書活動とICT活用を相互に生かしながら、児童が主体的に学ぶ力を育む指導の充実を図ってほしい。
			タブレットを活用し、進んで学習に取り組んでいる。	「学習で週に一回以上タブレットを使っている。」の項目で、肯定評価80%以上	アンケート	学期末	○		
			複UDスタンダードをもとにした授業をする。	「複UDスタンダードを意識して、授業を行っている」の項目で肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート(教職員)	学期末	○		
豊かな心	学ぶ意欲	問いを自分事として捉え、進んで学習に取り組む子を育成する。そのために教材研究を行い、手立てを考える。	授業の中で、子どもたちが「問いを自分事として捉えられる手立てを考え、授業づくりを行う。」	「自らの問いをもって、学習に取り組んでいる」の項目で肯定評価70パーセント以上	アンケート	学期初め	○	「自分の問いをもって学んでいる」子は1年生でこそ76.5%だが、2年生から4年生まで8割、5、6年生では9割以上となっている。先生方が、子ども一人一人の疑問を大切にしたい授業づくりを心掛け、「わからない」といえる学習環境を大事にしている成果であると考える。 「これまでに学んだことを生かしている」では、肯定評価が全学年で約9割。学習のつながりを意識した学習が学校全体に定着してきている。 「こころほぐし」の項目で、今年は9割前後になった。学習指導要領の「対話的で深い学び」が各授業で具現化してきたといえる。このまま子どもと子どものつながりを意識した授業づくりに取り組み続けていきたい。	
			全ての教科において、子どもたちが主体的に取り組める手立てを考え、授業づくりを行う。	「子どもたちが主体的に取り組むことができるような手立てを考えて、授業づくりを行っている」の項目で肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート(教職員)	学期末	○		
深い学び	学びのつながりを意識して授業を行い、互いの意見を聞きあい、学び合いながら学習を深めていくことができる子を育成する。	子どもたちが、授業の中で学習のつながりを実感する。	「これまでに習ったことをいかにして、考えることができるか」の項目で肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○	支援の必要なAさんなどについて知ることができ、理解につながっている。また、担任が気づいていなかった子どもと子どものつながりやつづきを共有することで、今までの授業や教師の在り方を見直す機会となっている。		
		子どもたちが、互いの意見を聞きあい、すすんで学習に取り組んでいる。	「互いの意見を聞きあい、学び合いながら学習を深めている。」の項目で肯定評価80パーセント以上	アンケート	学期初め	○			
豊かな心・健やかな体	正しく判断し行動する	一人ひとりを尊重し、個性の伸長をはかり、社会性を高める。正しく判断し、「生きる力」や「温かい人間関係づくり」ができる子を育成する。	人権教育、道徳教育を計画的・効果的に推進し、豊かな心を育成する。	「自分にはいいところがあると思う」の項目で肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○	人権教育の推進については、様々な人権課題に触れるために年間計画を作成し、学年で取り組むように推進している。 支援交流会を夏休みと2学期に行い、関わりを持つことでお互いの理解を深めようとしている。	
			支援学級や異学年の交流を通して、立場の違う子との関わり方を学び、思いやりの心を育てる。	低・中学年「相手の気持ちを考えて行動している」高学年「自分とかかわりのある人の気持ちを考えて行動している」、全学年「一人ひとり違いがあることを認めたいと思う」の項目で肯定評価が80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○		
			「いじめは絶対にしてはいけないものだ」という認識をもつことができる。	いじめに関するアンケートを取り、「いじめはどのような理由があっても決してしてはいけないものである」という項目で肯定評価が限りなく100%に近い数値	学校生活アンケート	学期末	○		
			たてわり活動に主体的に取り組む、異学年の子との関わり方を学ぶ。	「たてわり活動を楽しみにしている」、高学年「たてわり活動で、企画や運営することによりやりがいを感じる」の項目で肯定評価が80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○		
心と体の調和	自己の心身について理解し、よりよく向上させようとする態度を養う。	健康な体を作るための生活習慣を考え、実践する子を育成する。	「保健だより、保健指導、健康についての授業から、自分自身の健康について考えることができた。」「朝ご飯を食べている」の項目で肯定評価が80パーセント以上	学校教育アンケート	学期末	○	視力が低下している児童が多いため、めについてのほけんだよりや保健指導を実施する予定		
		体力向上の取り組みを計画的に実施する。	昨年度の体力テストの結果から向上がみられるかと判断	体力テスト	学期末	○			
学校	安心・安全・確かな学び	「小中一貫グランドデザイン」に基づく小中一貫教育の充実を進める。	児童生徒の情報交換を密に行う。	情報交換会を定期的に開催する。(学期に一回以上)	開催率	学期末	○	三校合同の夏季研修では、学年や校務分掌ごとにチームを作り、校区としての課題を話し合い、来年度に向けた取り組みを検討した。生徒指導担当は月一回集まり、情報交換会を開催した。一学期には指導案を共有し、授業の質を高めつつ、1人1人学習交流会を中学校区での取り組みとして行ったり、校区としてのつながりを深めることができた。	
			学校間での授業ルールなどを合わせる。	各教職員が夏季に行われる合同研修に参加する。	参加状況	学期末	○		

校長より(年度末) 重点目標「心地よい学びがあふれる学校づくり」に向けて、様々な取り組みを行い、それぞれに成果を上げることができた。特に、学校全体で「つながり」を意識した授業改善を行い、普段の授業でペアやグループで児童同士が話し合っ課題解決に向かう姿がたくさん見られた。一方で、自己肯定感80%はまだ低いと考える。自他共に大切に心の教育を引き続き推進していく必要がある。
--

学校関係者評価者から(年度末) 子どものあるがままの今の姿を、まずはしっかりと受け止め、肯定することから指導をスタートしてほしいと思います。そのうえで、個々の子どもが日々の学習や生活の中でどのように変容してきているのかを丁寧に形成的に評価し、その過程から見えてくる子どもの姿や成長の様子を的確に捉えて、今後の指導や支援に生かして欲しいと思います。
--